

がんの痛みを和らげるお薬について

がん患者さんが体験する痛みには ・がん自体による痛み・治療による痛み・がんに関連する痛みがあり、効きやすい痛み止めや治療方法が痛みの種類ごとに異なります。いつ、どんな時に、どこが、どれくらいの痛みがあるかによって、薬が選択されます。

がんの痛みを和らげるお薬は、オピオイド鎮痛薬（医療用麻薬）、非オピオイド鎮痛薬、鎮痛補助薬に分けられます。今回はオピオイド鎮痛薬についてお話しします。

オピオイド鎮痛薬は医療用の麻薬に分類され、強い痛みに対して使用を開始します。飲み薬（錠剤、粉薬、水剤）の他に貼り薬、坐薬、注射薬などがあり、痛みの強さや患者さんの症状・状態などによって選択していきます。

痛みの種類には、1日のなかで12時間以上続く痛み（持続痛）と、痛み止めでコントロールしていても一過性の強い痛み（突出痛）が出現することがあります。持続痛のコントロールには決まった時間にお薬をきちんと使用する必要があります。決まった時間に使用していても突出痛が出現する場合には、レスキューと呼ばれるお薬を使用します。レスキューは痛みを感じ始めたら早めに使用することや、痛みが予測される動作の前にはあらかじめ使用しておくことも効果的です。レスキューの回数に応じて、持続痛をコントロールするお薬の量を調節することがあるため、1日何回、何時に使用したかを記録していただくことで痛みのコントロールに役立てることができます。

主な副作用としては、便秘・吐き気・眠気があります。吐き気や眠気は、オピオイド鎮痛薬を開始したときや増量したときに出現することがありますが、体が慣れてくれば落ち着いてくるといわれています。吐き気が辛い場合には、吐き気止めを使用することもあります。

便秘は、オピオイド鎮痛薬を使用している場合対策が必要になりますが、現在様々な種類の便秘治療薬があり、排便状況に合わせたお薬を使用していきます。

麻薬と聞くと、中毒や依存の心配などから抵抗のある方もいらっしゃると思います。しかしながら、医療用の麻薬をがんの痛みがある方が適切に使用している場合には、中毒や依存症になることはほとんどありません。痛みがあるときには我慢せずに適切に痛み止めを使用して痛みを緩和していくことが大切です。

副作用など不安や気になることがあるときには遠慮せず、医師、薬剤師、看護

師にご相談ください。

【薬剤師 栗原 麻奈美】

